

道北における地域教育支援の取り組み

—北海道教育大学旭川校教員による事例紹介—

2012年11月

北海道教育大学旭川校 地域連携フォーラム実行委員会

巻頭の挨拶

北海道教育大学副学長（旭川校担当） 八重樫 良二

大学は社会で活躍する人材養成を担って、学問研究と共に学生への教育を行っています。加えて今日、地域への社会貢献を果たすこともまた、大学の使命として大きく期待されている所です。教員養成系の大学として位置付けられる本学は、教育に関わって主にその指導者養成を目的に、各キャンパスが道内それぞれの地域の教育拠点として、その役割を果たしています。旭川校においては広く道北地方をカバーして各地域への教育支援、地域連携に取り組んできました。

その活動には学生ボランティアの派遣をはじめ、出前授業、公開講座やワークショップの開催など、色々な内容、方法があります。これらの活動は、必ずしも大学と教育委員会や地方自治体といったように組織同士の対応の中で行われるものばかりではありません。大学教員個別の専門性を教育現場の先生方の活動と結びつけることによって、そのニーズに応じているものもあれば、ゼミナール活動の一貫として他の教育的組織と連携が計られている事例など、個々人の結びつきによって行われているケースが多数あります。

この冊子は、教育支援、連携活動をめぐる様々な取り組みについて、その事例を集めて紹介するものです。地域教育連携の活動について、旭川校の各教員から任意に活動報告を受けて掲載しています。そのため、旭川校における全ての活動を網羅したものではなく、また活動内容の記載にもばらつきがありますが、教員個々人から発せられる情報の紹介を意図したものとしてご承知おきください。

学外の皆様には、大学が行っている教育支援への取り組みの実際をご理解いただけることと思いますし、学内関係者にとっても改めて互いの活動を知る事に役立つ事と思います。ささやかなものではありますが、この小冊子が、今後の地域の教育支援について考えるきっかけになれば幸いです。また、この場を借りて資料提供にご協力をいただいた教員の方々に感謝致します。これからも本学旭川校は道北の地に根ざした大学として、その役割が果たせるよう努めて参ります。皆様の御理解、御協力をいただけますよう御願ひ致します。

目 次

巻頭の挨拶	1
【解説】地域教育連携 報告シートについて	4
報告シート	
・レゴ・マインドストームのレンタルシステムによる 自律型ロボット学習に関する実践研究	5
・第 8 回上川管内中学生創造ものづくり教育フェア	6
・第 2 回 U-16 旭川プログラミングコンテスト	7
・利尻富士町 「平成 24 年度 夏休みチャレンジ教室」	8
・音楽分野の学生によるオペレッタ「金の子犬、銀の子犬」公演	9
・音楽分野の学生による「音楽鑑賞交流会」	10
・中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会	11
・はらぺこクッキング「～ブラジル料理でわくわくカーニバル～」	12
・ドンマイの会（北海道高機能広汎性発達障害児者親の会）の本人活動における ものづくり活動サポート	13
・旭川ウェルビーイング・コンソーシアム（AWBC） 植物の機能性を活用するワーキンググループ	14
・旭川市内の産官学による子ども食育教室 「旭川産食材を使ったアイスクリームを作ってみよう！」	15
・旭川市内の産官学による食育教室 「旭川教育大生考案オリジナルレシピアイスクリーム試食会」	16
・「平成 24 年度 道北地域における学校支援プロジェクト」による 『枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」』支援	17
・旭川美術館・旭川彫刻美術館・中学校美術部連絡協議会・北海道教育大学旭川校による 表現鑑賞プログラム共同開発プロジェクト「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」 ワークショップ関連中学校美術部への技術指導	18
・旭川市地域連携アートプロジェクト「愛のヴィクトリアン・ジュエリー」展 関連ワークショッププログラム	19
・旭川市地域連携アートプロジェクト「椅子と絵の対話」展 鑑賞プログラム	20
・旭川市地域連携アートプロジェクト 旭川市立彫刻美術館巡回展出前授業プログラム	21
・旭川市地域連携アートプロジェクト 造形まつりプログラム	22

・ビオトープを利用した自然体験活動の授業	23
・家庭ごみ3Rセミナー（旭川市主催）	24
・講演「新幹線開業は地域になにをもたらすか」 もう一度北海道新幹線について考える（さっぽろ自由学校「遊」主催）	25
・講演「やっかい物を時限・エネルギーへ 雪が拓く可能性」 （旭川ウェルビーイングコンソーシアム主催公開講座）	26
・平成 24 年度上川管内高等学校養護教諭研究協議会 第 2 回研究協議会 「養護教諭のためのフィジカルアセスメント」	27
・生き生き活動する武道授業 — 柔道 —	28
・東川町立東川小学校 ボランティア	29
・旭川市立青雲小学校 ボランティア	30
・土曜スクール・みのり（旭川市母子福祉連合会事業）	31
・今日も行く？互いに学び、教えあえるコミュニティカフェ ～小規模高齢者地域でつくる居心地の良い陽だまり～	32
・学習支援ボランティア団体「ゆずりは」	33
・3 つ実験ブースの出展参加（旭川市科学館(サイパル)科学探検広場 2012）	34
・色変化と酸性アルカリ性（みんなで体験 夏休みわくわくサイエンス）	35
・楽しく理科の実験をしてみよう （永山小学校 2 年 2 組のクラスレクリエーション）	36
・英語教師の会 MATE (Meeting Asahikawa Teachers of English)	37

付属資料

・学生ボランティア派遣事業(概要)	40
・平成 24 年度 授業公開講座一覧	43
・学校訪問等／出前授業 (23.10.1～24.9.30)	44
・平成 24 年度 審議会等派遣一覧(その 1)	45
・平成 24 年度 審議会等派遣一覧(その 2)	46
・平成 24 年度 講演会講師・助言者等派遣一覧(その 1)	47
・平成 24 年度 講演会講師・助言者等派遣一覧(その 2)	48
・平成 24 年度 講演会講師・助言者等派遣一覧(その 3)	49

【解説】地域教育連携 報告シートについて

このシートは、北海道教育大学旭川校の教員が主体として、または橋渡し役として行っている地域教育連携活動をまとめたものです。内容は、自治体や教育関係団体と本学教員が共同で行っている事業、本学教員による研修会・講演会、学生の派遣事業など多岐にわたっております。

なお、本報告は教員の自主申告に基づいており、必ずしも現在行われている地域教育連携事業のすべてを網羅したものではありません。また、内容が一部重複するところもあります。

シートの見方

各項目には以下が記載されています。

テーマ（事業名）：地域連携事業、研修会の名称

日 時（期間）：事業が行われた日時もしくは期間

場 所：事業が行われた場所

参加人数：事業に参加した人数の総計

担当者：事業にかかわった本学教員及び関係者

概 要：事業のおおよその内容

成 果：事業がもたらした成果

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	レゴ・マインドストームのレンタルシステムによる自律型ロボット学習に関する実践研究
日時 (期間)	平成 24 年 9 月～平成 25 年 3 月
場 所	南富良野中学校
参加人数	南富良野中学校第二学年 15 名
担当者	北海道教育大学旭川校 渡壁 誠、南富良野中学校 小泉匡弘
概 要	<p>新学習指導要領において、中学校技術家庭科技術分野の内容は大きく変更された。その中でもエネルギー変換に関する技術や計測制御に関する技術などこれまで選択の枠組みで行われてきた内容を必修で学習させることになった。現職教員のこうした変更への対応を支援する一つの方向として、技術教育講座ではレゴ・マインドストームを貸し出すとともに、教員と連携して担当校や学級に則したカリキュラムの開発を行っている。本事業は昨年に引き続き南富良野中学校で実施するものである。昨年度の反省をもとに授業をスタートさせた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フローチャートなどを用いプログラムに関する基本的な学習 2. レゴによるロボットコンテストの紹介とレゴを用いた機構学習 (本学教員による) 3. 実際に5つの課題にチャレンジする <p>といった学習を展開する。</p>
成 果	本年度の教育実習において、技術分野より1名南富良野中学校に派遣された。授業の一環としてレゴを用いた授業を担当した。大学でレゴを用いた学習活動の活用方法を検討する。さらに、多くの学校で実践できる枠組みを模索する。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	第8回上川管内中学生創造ものづくり教育フェア
日時(期間)	平成24年9月30日
場 所	旭川市立北星中学校
参加人数	管内中学生 約40名、中学校教員約20名、本学学生約20名
担当者	北海道教育大学旭川校 渡壁 誠(同実行委員会実行委員長)、川邊淳子(副実行委員長)
概 要	<p>本事業は昨年まで1月に開催していた技術・家庭科における学習内容に関する上川管内の中学生の競技会である。加えて、教員の教科指導や評価の研鑽の機会として位置づけられ、本年度で8回目の実施であるが、毎年1月に開催される全国大会の予選会に位置づけるために9月開催を試みた。競技会は家庭分野の包丁名人(あなたのためのハンバーグランチ)、技術分野の木工の匠(市販キットを用いた木工作品製作)およびロボットコンテストからなる。すべての競技は毎年行われる全国中学生創造ものづくりフェアにおける競技大会の規定を参考に企画され、授業の内容に即したレギュレーションを定め行っている。ロボットコンテストでは10月に事前講習会を本学教員が行っている。講習会において本学学生の製作したロボットを参考にデモンストレーションを行う。フェア当日には学生が全面的にサポートすることにより、現職教員や中学生とのコミュニケーションを図る。加えて、イベントの運営方法を学ぶ</p>
成 果	<p>本学教員と中学校教員との共同作業により両者のコミュニケーションが確立される。学生にとって教育実習以外の活動で現職教員と共同作業を通じて良好な人間関係を築くことができる。また、中学生が競技会に参加することで、ものづくりの喜びを実感し、技術・家庭科の学習成果を発揮する機会をもたらせる。加えて、技術・家庭科の学習内容を社会に周知する機会となる。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	第2回 U-16 旭川プログラミングコンテスト
日時 (期間)	平成 24 年 10 月 13 日
場 所	旭川市科学館
参加人数	管内中学生 約 20 名、工業高校および工業高等専門学校学生 20 名
担当者	北海道教育大学旭川校 渡壁 誠 (同実行委員会委員)
概 要	<p>本事業は旭川 ICT 協議会から発案された事業であり、パソコンが好きな中高校生に、プログラムの作成やコンピュータで絵を書くことなどを通して、ICT に対する興味やものづくりの楽しさを感じてもらい、将来の ICT エンジニア・ICT クリエイターの育成を目的としている。コンテストはプログラミングの成果を競う競技部門とデジタルコンテンツ (パソコンで描いた絵やウェブページなど) の出来を競う作品部門からなる。8 月に 2 日日程で 2 回、競技部門に関する講習会が旭川市科学館において旭川工業高等専門学校および旭川工業高校の生徒によって開催された。また、コンテストまでの期間で学校からの要請によって出前講習会も実施された。また、次年度から中学校技術分野で利用されている教材ロボットを利用した競技部門の設立も視野に入れている。</p>
成 果	<p>北海道新聞、北海道経済に関連記事が掲載された。ICT 分野で中学生を対象としたコンテストは全国でも少ない。パソコン好きの中学生に腕試しの機会を提供するとともに、旭川工業高等専門学校生・旭川工業高校生に活躍の場を提供することができた。来年度以降も継続される予定であるので、本学学生の貢献を考えるよい機会となった。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	利尻富士町 「平成 24 年度 夏休みチャレンジ教室」																
日時 (期間)	平成 24 年 8 月 6 日 (月) ～平成 24 年 8 月 10 日 (金)																
場 所	鴛泊小学校																
参加人数	<u>小学生 66 名</u> <u>1 年生 12 名</u> <u>2 年生 17 名</u> <u>3 年生 16 名</u> <u>4 年生 15 名</u> <u>6 年生 6 名</u> <u>中学生 15 名</u> <u>1 年生 6 名</u> <u>2 年生 8 名</u> <u>3 年生 1 名</u> のべ 405 名 (上記参加者 81 名×5 回)																
担当者	三浦 裕																
概 要	<p>4 年連続開催となったこの事業は、長期休業期を利用し、「短期集中講座を実施することにより、将来教員をめざす学生とのふれあい、自然とのふれあいを持ち、学ぶ意欲のある子ども達に対して、安全・安心な居場所を設け、学習機会や様々な体験を提供する」ことをねらいとした事業である。</p> <p>利尻富士町からの企画・運営支援要請や学生派遣の要請に応えるべく調整を重ね、6 名の学生派遣を決定した。</p> <p>参加児童・生徒を 1 年生～6 年生までの 5 クラス、中学生の 1 クラスに編成し、各教室で本校学生らがクラス担任として 5 日間の日程で学習の指導を行った。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;"><u>21 年度参加児童生徒</u></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">58 名</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;"><u>派遣者 (要請)</u></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">学生 4 名</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;"><u>22 年度参加児童生徒</u></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">74 名</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;"><u>派遣者 (要請)</u></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">学生 5 名 教員 2 名</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;"><u>23 年度参加児童生徒</u></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">76 名</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;"><u>派遣者 (要請)</u></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">学生 7 名</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;"><u>24 年度参加児童生徒</u></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">81 名</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;"><u>派遣者 (要請)</u></td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">学生 6 名</td> </tr> </table>	<u>21 年度参加児童生徒</u>	58 名	<u>派遣者 (要請)</u>	学生 4 名	<u>22 年度参加児童生徒</u>	74 名	<u>派遣者 (要請)</u>	学生 5 名 教員 2 名	<u>23 年度参加児童生徒</u>	76 名	<u>派遣者 (要請)</u>	学生 7 名	<u>24 年度参加児童生徒</u>	81 名	<u>派遣者 (要請)</u>	学生 6 名
<u>21 年度参加児童生徒</u>	58 名	<u>派遣者 (要請)</u>	学生 4 名														
<u>22 年度参加児童生徒</u>	74 名	<u>派遣者 (要請)</u>	学生 5 名 教員 2 名														
<u>23 年度参加児童生徒</u>	76 名	<u>派遣者 (要請)</u>	学生 7 名														
<u>24 年度参加児童生徒</u>	81 名	<u>派遣者 (要請)</u>	学生 6 名														
成 果	<p>教育委員会社会教育主事らが副担任となっているため、サポート体制も充実し、学生個々の独創性も尊重された事業であった。クラス間交流の場面では参加者の年齢差の対処に戸惑う場面も見受けられたが、子どもの発達に応じた指導法等、今後の実践に役立つ事業参加であった。</p> <p>今年は、過去最多の 81 名の参加があった。毎年、学生を心待ちに参加してくれる参加者もあり、地域に根付いた取り組みであることから、今後も継続してほしい事業である。</p>																

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	音楽分野の学生による オペレッタ「金の子犬、銀の子犬」公演
日時 (期間)	平成 24 年 2 月 22 日 リハーサル 平成 24 年 2 月 23 日 本番
場 所	東神楽町立志比内小学校 体育館
参加人数	出演者及びスタッフ：33人（音楽分野学生1～3年生） 鑑賞者：約40人（小学生、保護者、地域住民）
担当者	石田 久大（演出） 杉江 光（音楽指導、音響）
概 要	<p>子どもたちへの芸術鑑賞会として、オペレッタ「金の子犬、銀の子犬」（作曲：二橋潤一、台本：石田久大）の公演を行った。</p> <p>あらすじ：優しく気の良いペナンペという青年は、魚が捕れなくて困っているカラスに大きな魚をあげる。すると、お礼にカラスの国に招待され、ごちそうになったうえに、銀の子犬と宝の箱をもらって帰る。それを聞きつけた欲張りもののペナンペは、「自分もお宝が欲しいものだ」と、カラスを見つけるとむりやりカラスに小さな魚を渡し、強引にカラスの国へ行って金の子犬とお宝をもらってくる。家に帰る途中、待ちきれなくてお宝の箱を開けると箱から犬のうんこやマムシなどが出てきて大慌て。助けを求めるペナンペを村の人が日ごろの行いの悪さのせいでこんな目に遭うのだとお仕置きし、ペナンペは、「これからは優しい気持ちで皆と暮らしていくよ。」と改心する。</p> <p>アイヌ音楽の伝統や美学を盛り込み、古くから伝わる「鶴の舞」や「踊り唄」などの唄や踊りも加えて、子どもたちの興味、関心を引く楽しい作品となっている。「鶴の舞」や「踊り唄」は、川村カネト・アイヌ記念館（旭川市）の川村久恵 氏の指導を受け、より正確にアイヌ文化を伝えるように配慮している。</p>
成 果	<p>大学生が「教育現場で鑑賞教育に貢献する」事は、簡単なことではない。特に音楽劇という総合芸術において、子どもたちが飽きることなく舞台に見入って“おもしろかった！”と言ってもらうには、「歌唱力、演技力、台詞回し、音楽性、演出、舞台美術」などが鑑賞に値する一定のレベルにならないと行かない。</p> <p>大きな責任感をもってこの公演に取り組み、やり遂げることにより、学生は技術的にも精神的にも大きく成長したとを感じる。また、子どもたちの「初めての音楽劇ですごく感動した」などの感想文から、鑑賞教育に貢献できたものとする。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	音楽分野の学生による 「音楽鑑賞交流会」
日時 (期間)	平成 24 年 9 月 14 日
場 所	北海道教育大学附属旭川小学校 体育館
参加人数	出演者：11 人（音楽分野大学 2 年生） 鑑賞者：約 420 人（全校生徒）
担当者	石田 久大 杉江 光
概 要	<p>附属旭川小学校での音楽鑑賞交流会。</p> <p>●内容 演劇を交えたストーリー仕立ての音楽鑑賞会で「吹奏楽」「リコーダー合奏」「鍵盤ハーモニカ合奏」「トーンチャイム」「混声合唱」の演奏を行い、最後に「花は咲く」の大合唱を小学生と共に演奏した。</p>
成 果	<p>子どもたちが、普段目にする事のない各楽器の特性、音色、奏法などを学び、生の演奏でその音色を味わうことにより、様々な楽器に対する興味関心を引き出すことができたと考える。</p> <p>全校生徒の前で演技をしながら演奏することにより、大学生は技術的にも精神的にも大きく成長し、パフォーマンス能力が向上したと感じる。</p> <p>子どもを飽きさせないストーリー、台詞回し、演奏プログラムを大学生が考案し、鑑賞教材開発を行うことで、鑑賞教育に対する大学生の意識が高まった。</p> <p>公演後の子どもたちの感想から、長い時間、練習に練習を重ねて取り組んだ成果を感じ、皆と協力し合い成し遂げた達成感が得られた。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会
日時 (期間)	平成 23 年 9 月 28 日 (水) 平成 24 年度は冬季に実施予定
場 所	北海道教育大学旭川校
参加人数	上川管内技術・家庭科研究会に所属する中学校教員約 15 名
担当者	芝木 邦也、渡壁 誠、川邊 淳子
概 要	<p>この事業は、平成 17 年度に始まったもので、今年度で 8 年目となる。</p> <p>上川管内技術・家庭科研究会の先生方を対象に、技術分野と家庭分野の 2 本立てで、教員としての指導技能の向上および評価観点の勉強会として、大学が基本的には主体となり、上川管内技術・家庭科研究会の先生方と、企画立案・実施を行っている研修である。</p> <p>当初はその講師として、上川地区技能士会の協力をいただいていたが、新学習指導要領の告示、また先生方の研修ニーズの多様化、さらに、単なる指導技能向上だけでなく、従来からの指導方法の基礎・基本の再確認などを目指し、その講師陣も地域で活躍するその道のプロの方々にもご協力をいただくかたちとなってきている。</p> <p>昨年度は、技術分野において、中学校の新教育課程で必修内容となった「生物育成」に関する内容として、畑の作り方・播種・定植・生育管理・収穫などを、実習内容としては、耕耘機・畑起こし・整地・畝たて・株間決め・施肥・支柱・整枝・誘引の仕方などを研修会内容として組み込んだ。</p> <p>今年度は、技術分野では、情報に関する技術の活用についての提案として、教材比較の中から検討していく予定である。また家庭分野においても、行事食をテーマに、切り方の基礎指導や食文化に視点をおいたマナーとともに研修していただく予定である。</p>
成 果	<p>最初は地域貢献プロジェクトの一環として、年度を区切って限定的に行う予定ではあったが、今では、現場の先生方の年間研修計画の中にも入れていただき、大学側から提供するものばかりでなく、先生方の研修ニーズを取り入れたかたちで、毎年講師の選定から研修会の内容構成まで、現場の先生方のアドバイスもいただきながら検討を行うに至っている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	はらぺこクッキング「～ブラジル料理でわくわくカーニバル～」
日時 (期間)	平成 24 年 8 月 6 日 (月)
場 所	北星公民館 料理講習室
参加人数	旭川市内の小学生 (3～6 年生) 16 名
担当者	生活・技術教育専攻学生 (家庭科教育第 2 ゼミ)、 藪 たかね氏 (ブラジル生活および食文化講師)、 川邊 淳子
概 要	<p>この講座は、平成 20 年度に始まったもので、今年度で 5 年目となる。ゼミの学生が主体となって、企画立案・案内・実施までを行う、食をテーマとした活動である。対象者は旭川市内の小学生を対象としている。</p> <p>基本的には、旬の食材が手に入りやすい夏に、年に一度のペースで行っているものである。第 1 回目は、“こねる”という調理動作に着目して小麦粉などをこねることでうどんを作り、第 2 回目は、旭川産の“トマト”に着目してピザやサラダなどを作った。第 3 回目は、学生自らが野菜を大学の農場で栽培することによって、ただ料理を作るだけでなく、その野菜の育ちから栽培体験も含めて、採れたて野菜を用いた夏野菜いっぱいのカラフルカレーを作った。第 4 回目は、道産小麦に着目し、パンを生地作りから始め、牛乳やリンゴを使ったジャムづくりにも挑戦した。第 5 回目は、旭川の特産品の一つにもなりつつある、米粉を用いたギョウザづくりも行った。平成 21 年度だけは、お正月のお餅つきやお雑煮づくりといった食文化の伝承をテーマとして、お正月はらぺこクッキングとして年末にも実施した。</p> <p>対象としては、基本的には旭川市内の 3 年以上の小学生である。開催場所は、大学以外にも市の公民館や小学校を利用することもあるが、その開催場所に近い小学校を中心に、学生自らがチラシなども作成し広報にあたっている。</p>
成 果	<p>元々は、子どもと関わるのが大好きな学生たちが、自らが将来教師として教壇に立つために必要な力を育むことを目的として始めたものではあった。しかし、最近では、この取り組みを楽しみにして連続して参加してくれる子どもたちも増えて来ており、少しずつではあるが、地域に根づきつつある活動であると実感してきている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	ドンマイの会（北海道高機能広汎性発達障害児者親の会）の本人活動におけるものづくり活動サポート
日時（期間）	平成 24 年 9 月 15 日（土）
場 所	おびった
参加人数	中・高校生 9 名、ボランティア 10 名
担当者	生活・技術教育専攻学生（家庭科教育第 2 ゼミ）・川邊 淳子
概 要	<p>旭川校特別支援教育の先生方や学生さんが普段は関わっていらっしゃる、ドンマイの会の本人活動に関して、家庭科教育の立場から、ものづくりをテーマとして活動テーマ案を提示し、ドンマイの会のボランティアの学生さんたちと、企画立案・実施・サポートまでを共同で行ったものである。</p> <p>具体的なものづくり活動のテーマとしては、今回は「指編み」を取り上げた。中・高校生と当日カップリングとして関わるボランティアさんが 1 組となり、全体的指導の後、個別指導を行いながら、活動を進めていった。指編みは、手先を使い、さらにグループでではなく個人的な活動中心となったが、参加者の生徒さんたちは、活動にかなり集中して熱心に取り組んでいただけでなく、参加者同士やボランティアさんとの会話も弾んでいたようである。</p> <p>今後は、調理実習など食をテーマとした活動提案・サポートを、小学生や成人の活動においても、実施していく予定である。</p>
成 果	<p>今年度・今回が初のサポートとなり、最初は活動テーマ案を立案することから悩んだが、特別支援教育の先生方や学生さんにアドバイスを頂きながら、さらに生活・技術教育専攻の学生さんの案も摺り合わせながら、とても有意義な活動になったのではないかとと思われる。今回の活動によって得られた、時間配分や活動のゴールをいかに設定するなどの問題点や課題を、今後に生かしていきたいと考えている。また、支援・サポートという立場ながら、参加者との関わりを家庭科の学生が実際持つことによって、ものづくり活動における、個別支援やサポートのあり方、活動の内容や進め方などを実感できたことは、大変意味のある関わりとなった。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川ウェルビーイング・コンソーシアム (AWBC) 植物の機能性を活用するワーキンググループ
日時 (期間)	2カ月に1回開催
場 所	まちなか交流館 HI・RO・BA
参加人数	10名前後
担当者	伊藤 友美
概 要	<p>須田先生の紹介で2010年9月より設立したAWBCに参加している。この趣旨は旭川の4大学1短大1高専が中心となり地域の研究期間や産業界、住民および行政と協働して、圏域住民の健康（ウェルビーイング）の達成と、地域資源に根ざした居住・生活環境、農畜産・食品加工製造、健康保養・観光などを振興することを目的としている。</p> <p>旭川地域はじめ上川支庁は北海道の中にあっても有数の農業生産規模を誇っている。また自然に恵まれることから野生の植物が豊富であり、さらに天然林を含めた森林にも恵まれている。こうした食物となる農業生産物および健康保養の地域資源に恵まれる地域の優位性がある上に、高等教育機関で研究を行っている。</p> <p>その中でも特に旭川地域において、植物の機能性成分についての研究、生産を行っているグループが集まり、2カ月に1回の会合で情報交換、共同研究の可能性について議論している。</p>
成 果	<p>学術分野の発展と地域研究期間の振興にとどまらず、地域に在住する人々の県境の維持増進へも効果が波及することが期待される。</p> <p>年々参加人数が減っているが、出来るだけ参加し、交流を深めていきたいと思っている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市内の産官学による子ども食育教室 「旭川産食材を使ったアイスクリームを作ってみよう！」
日時 (期間)	平成 24 年 6 月 23 日
場 所	旭川市東鷹栖農村活性化センター野土花
参加人数	旭川市内の小学生とその保護者 約 12 名
担当者	生活・技術教育専攻学生 (家庭科教育食ゼミ)、伊藤 友美
概 要	<p>食の外部化で加工食品が増え、子どもたちは原材料がわからない食品を食べているため、近年、学校教育で食育が推進されている。一方で、旭川市では様々な農産物が栽培されているが、生鮮食品などは地産地消に限界があり、収穫した食材を一次加工して出荷、利用する試みがなされている。また、本大学では、家庭科の実習の一環で地元の食材を使ったアイスクリームを試作、開発している。</p> <p>そこで、地元の小学生と親を対象に食育教室を実施することで、旭川産の食材の魅力に気づき、食材の特性を生かした加工技術や食文化に関する知識を高めて、食に関する興味や関心を深めることを目的として、旭川市内の産官学による子ども食育教室「旭川産食材を使ったアイスクリームを作ってみよう！」を行った。</p> <p>農協（産）で収穫された食材を使い、旭川市東鷹栖農村活性化センター野土花（官）の加工施設を利用し、本大学学生が開発したアイスクリーム（学）を作った。試食しながらアイスクリームに関する知識を身に付けるため、クイズを行いながら食育について学んだ。</p> <p>試食の後は、たいせつ農産物直売所にて実際に売られている野菜を見ながら旬や新鮮な野菜の選び方などを学生が説明し、実際に新鮮な野菜を選んでもらうことで、野菜を身近に感じる事ができた。</p>
成 果	アイスクリーム作成を通して子どもたちと関わることができた。6月25日の北海道新聞で「イチゴでアイス作ったよ たいせつ農協と道教大旭川校 親子を対象に食育教室」というテーマでこの取組が掲載され、学生たちの励みになった。直売所にて小学生に直接野菜を見ながら生きた教材で食育を学ぶ機会ができてよかったと思う。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市内の産官学による食育教室 「旭川教育大生考案オリジナルレシピアイスクリーム試食会」
日時 (期間)	平成 24 年 6 月 23 日
場 所	たいせつ農産物直売所
参加人数	旭川市内の住民 約 70 名
担当者	生活・技術教育専攻学生 (家庭科教育食ゼミ)、伊藤 友美
概 要	<p>旭川市では様々な農産物が栽培されているが、生鮮食品などは地産地消に限界があり、収穫した食材を一次加工して出荷、利用する試みがなされている。また、家庭科の実習の一環で地元の食材を使ったアイスクリームを試作、開発している。</p> <p>そこで、開発したオリジナルレシピアイスクリームを通して旭川市民に旭川産の食材の魅力に気づき、食材の特性を生かした加工技術や食文化に関する知識を高めて、食に関する興味や関心を深めることを目的として、旭川市内の産官学による食育教室「旭川教育大生考案オリジナルレシピアイスクリーム試食会」を行った。</p> <p>農協（産）で収穫された食材を使い、旭川市東鷹栖農村活性化センター野土花（官）の加工施設を利用し、オリジナルレシピアイスクリーム（学）を作り、たいせつ農産物直売所で試食会を開いた。</p> <p>3種類のオリジナルレシピアイスクリームを試食して頂き、アンケートを行って、好みの味を選んでもらった。</p>
成 果	<p>アイスクリームのレシピから作成し、それを実際に多くの方に試食してアンケートをとることで、次のアイスクリーム開発の参考になった。年齢層や好みで意見が異なることがわかる、今後のアイスクリーム開発に役立つ。また、地域住民と直接かかわることができたのもよかったと思う。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	「平成 24 年度 道北地域における学校支援プロジェクト」による『枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」』支援																						
日時 (期間)	平成 24 年 9 月 27 日～9 月 30 日																						
場 所	北海道枝幸町小中学校 10 校																						
参加人数	学生 7 名 3 日間のべ 21 人、教員 2 名 3 日間のべ 6 名 児童生徒参加 のべ 300 名																						
担当者	小出 高義、南部 正人																						
概 要	<p>本事業は、枝幸町との協力協定に基づき、枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」を支援したものである。学生は枝幸町小中学校 10 校にグループ毎に配属されプログラムを実施した。その内容は、配属校設定プログラムと学生提供プログラムからなる。配属校設定プログラムは学校行事支援、授業 TT、給食指導、休み時間交流等である。また、学生提供プログラムは、所属専攻分野の専門性を生かしたもので、大学教員と共同し、配属校と事前打ち合わせを行い、題材開発し、提供した。内容は以下の通りである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 45%;">グループ名</th> <th style="width: 10%;">人数</th> <th style="width: 40%;">プログラム名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>体育グループ</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td>ニュースポーツ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>教育発達グループ</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td>小学校英語活動</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>美術グループ</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td>クレヨンを使った造形遊び</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>事業実施にあたっては、枝幸町教育委員会と本校が運営分担を行った。枝幸町教育委員会が、配属校との調整、参加学生の移動（枝幸町と旭川校間、配属校と宿泊場所間）等を行い、本学が提供プログラムの開発、実施、宿泊費・用具材料等の負担を行った。なお、本事業は 4 年目の実施となる。</p>				グループ名	人数	プログラム名	1	体育グループ	2	ニュースポーツ	2	教育発達グループ	3	小学校英語活動	3	美術グループ	2	クレヨンを使った造形遊び				
	グループ名	人数	プログラム名																				
1	体育グループ	2	ニュースポーツ																				
2	教育発達グループ	3	小学校英語活動																				
3	美術グループ	2	クレヨンを使った造形遊び																				
成 果	<p>本事業では、学生と児童生徒がプログラム実施を介して、豊かな交流が期待された。昨年は、教員志望者としての基本的行動が十分ではないと指摘があり、この点の改善を行った。教育実習を修了し、責任感のある学生のみでの参加とした結果、高い評価を受けた。</p>																						

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川美術館・旭川彫刻美術館・中学校美術部連絡協議会・北海道教育大学旭川校による表現鑑賞プログラム 共同開発プロジェクト 「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」ワークショップ関連 中学校美術部への技術指導
日時 (期間)	平成 24 年 9 月 6 日～9 月 20 日
場 所	旭川市立北都中学校、富良野市立富良野中学校、 東神楽町立東神楽中学校、名寄市立名寄中学校
参加人数	中学校美術部生徒 80 名、本学学生 3 名、本学教員 1 名
担当者	南部 正人
概 要	<p>中学校美術部連絡協議会・北海道旭川美術館・北海道教育大学旭川校の三者による共同研究により、旭川市内・周辺郡部中学校美術部生徒の表現・鑑賞能力向上をめざしたワークショッププログラムを開発、実施した。本年度は旭川美術館で開催される「愛のヴィクトリアン・ジュエリー展」関連ワークショップとして、クラフトジュエリーを制作し、美術館ロビーにて展示する。展示作品制作の技術指導として、本学学生、本学教員が、中学校 4 校にて制作支援を行った。支援内容は</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)ワーヤーワークによりティアラ制作 (2)紙粘土を使ったクラフトジュエリー制作 (3)毛糸を使ったクラフトジュエリー制作 <p>なお、本事業は科学研究助成費「教員志望学生により開かれた学校推進教員へのデザイン支援」研究の一部として実施した。</p>
成 果	例年行われる美術館事業、中学校美術部活動としてワークショッププログラムが定着。旭川市小中学校教育研究会図工美術部会を母体とした中学校美術部連携協議会が機能し、専任教員が配置されていない美術部への支援を行い、高い評価を受けた。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市地域連携アートプロジェクト 「愛のヴィクトリアン・ジュエリー」展 関連ワークショッププログラム
日時 (期間)	平成 24 年 7 月 7 日～11 月 8 日
場 所	旭川市内・上川地区中学校 北海道立旭川美術館
参加人数	参加生徒約 200 名
担当者	八重樫 良二、南部 正人、名達 英詔
概 要	<p>北海道立旭川美術館が企画する「愛のヴィクトリアン・ジュエリー」展をもとに、旭川市内、上川管内の中学校美術部生徒がワークショップを行うことを通して、鑑賞表現能力向上を目指すプログラムである。</p> <p>生徒たちは 7 月 7 日に旭川美術館に参集。展覧会を企画した旭川美術館学芸員の解説により展覧会の趣旨や作品の特徴について学び、加えて、学生から今回のワークショップにおいて取り組むオリジナルジュエリーづくりの手引きを受けた。その後、生徒は各中学校において個々に考えたオリジナルジュエリーを制作。完成した作品を 10 月 5 日に旭川美術館に搬入。10 月 6 日にオープニングセレモニーを行い、11 月 8 日まで美術館ロビーに展示する。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加生徒は、学芸員の解説や展示物から美術的表現の豊かさを知るとともに、制作活動を通して様々な視点や方法によって物事をみつめ、考える経験を得ることができた。 ・ 複数の学校が作品を一同に展示することで、互いの表現を見合ったり意見を持ち合ったりするなど、学校間での交流が期待された。 ・ 地域連携の為の美術館施設の活用及びその周知が期待された。 ・ 企画、運営に学生が携わることで教育実践力向上が図れた。 ・ 要望のあった中学校へ、大学から制作補助に出向くなど、より具体的に細かな協力がなされるようになった。 ・ 各主体の連携が充実し、企画、運営方法の合理化が進んだ。 ・ 学習効果や事業効果等、プログラムの検証を求める声が参画者から上がった。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市地域連携アートプロジェクト 「椅子と絵の対話」展 鑑賞プログラム
日時 (期間)	平成 24 年 6 月 10 日、16 日、23 日、24 日
場 所	北海道立旭川美術館
参加人数	参加生徒 350 名
担当者	八重樫 良二、南部 正人、名達 英詔
概 要	<p>旭川美術館が企画する展覧会を対象とした児童生徒の鑑賞能力向上を目指す学習プログラムである。</p> <p>旭川市内・上川管内の中学校美術部生徒が旭川美術館企画展「椅子と絵の対話」展をプログラムに沿って鑑賞した。6月に全4回実施したこの鑑賞プログラムは、ギャラリートーク、アートアクティビティ、自由鑑賞の三つの鑑賞方法によって構成されている。生徒は所属中学校の教員による引率のもと美術館に参集。美術館学芸員、中学校教員、大学教員。大学生とともに6つの展示コーナーに分かれ、それぞれの作品から得た感想や意見を基に対話を進めるギャラリートーク、気に入った作品を探し、その理由や感想をカードに記していくアートアクティビティ、自由鑑賞をおこなった。生徒は、美術館学芸員や他校の教員、生徒、大学生などと交流しながら各回2時間活動した。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加生徒においては作品の見方や考え方を学び、自ら進んで鑑賞しようとする姿が見られるようになった。 ・ 本鑑賞プログラムに例年参加している生徒においては、回を重ねることによる学習の積み上げが見られた。 ・ アートアクティビティの開発や、ギャラリートークのトーカーを学生が務めたことで、教育実践力の向上が図られた。 ・ 参画する各主体の特性を積極的に認め、生かすために、より柔軟な協力をすすめた。この結果、運営の合理化によるゆとりと各種の専門性に支えられた高い学習効果が生み出された。 ・ 学習効果や事業効果についての検証を求める声が参画者から上がり、対応する組織の編成や活動について検討が求められた。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市地域連携アートプロジェクト 旭川市立彫刻美術館巡回展出前授業プログラム
日時 (期間)	平成 24 年 6 月 8 日～平成 25 年 3 月 6 日
場 所	旭川市内小学校・中学校
参加人数	参加児童生徒 1,120 名、参加保護者・教員若干名
担当者	八重樫 良二、南部 正人、名達 英詔
概 要	<p>彫刻美術館による市内小・中学校への彫刻作品貸出巡回展を有効活用し、児童生徒の鑑賞能力向上を目指す学習プログラムである。本プログラムは、巡回展が行われている学校に、プログラムに参画している学芸員、学校や大学の教員、学生が出向き、校内に貸し出し展示されている彫刻を用いて行う。はじめに学芸員による全体ガイダンスがあり、その後、彫刻を基に気づいたことや考えたことなどを学芸員、学校や大学の教員、学生のナビゲートのもと、友達と語り合う対話型鑑賞と彫刻に触れたり持ったり中の様子を観察するなどしながら学ぶ体感型鑑賞を行う。それぞれの鑑賞法には学齢に応じた活動案を用意し、彫刻に親しみを持ち、さらに深く鑑賞をすすめていけるよう配慮がなされている。</p> <p>平成 24 年度は、市内及び上川管内 14 の小中学校児童生徒を対象に実施される。また、教員研修として 4 つの学校が出前授業を利用する。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の満足度が高く、彫刻の鑑賞学習に対する意欲の向上や美術館及び美術作品への関心の高まりが見られるようになった。また、作品を見て、深く考えるようになるなど、鑑賞の内容についても学習効果が見られた。 ・ 教員研修や学校参観日での実施により、教職員及び保護者の参加が得られ、指導力の向上や芸術文化に対する知見の広がり、美術作品を用いた教育普及活動への理解の獲得などに貢献した。 ・ 子どもの発達に配慮しつつ、参画した各主体が得意とするところを反映させたプログラム開発、整備が進んだ。 ・ プログラム参加を通じた学生の教育実践力向上が図れた。 ・ 学習や事業の効果検証を行うための組織づくりなどが検討された。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市地域連携アートプロジェクト 造形まつりプログラム
日時 (期間)	平成 24 年 7 月 28 日 (土)、29 日 (日)
場 所	北海道立旭川美術館
参加人数	参加者約 2,000 名
担当者	八重樫 良二、南部 正人、名達 英詔
概 要	道立旭川美術館を会場に、複数のワークショップを児童、生徒のみならず、広く一般に向けて提供し、地域文化の振興と教育の底上げを図ろうとするものである。本プログラムは、通常プロジェクトに参画している主体者に加え、地元の造形作家や地域の高校から集まった生徒ボランティアも加えて実施した。ワークショップのブースは旭川美術館から2つ、旭川市教育研究会から3つ、上川造形教育研究会から2つ、教育大学より3つの計9つを設置。参加者はおのこの取り組みたいブースを選びながら作品を制作した。事前に旭川市内、上川地区のすべての小中学校の児童生徒にチラシを配布するとともに北海道新聞による広告がなされたこともあり、開催当日は旭川市内・周辺地域から多くの来場者を得ることができた。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い世代に対して造形活動に親しむ機会を効果的に生み出すことができた。 ・ 地域に開かれた美術館としての活用と周知がはかれた。 ・ 学芸員、造形作家、教員、学生等、それぞれの立場からのアイデアを活かしたプログラムを実践できた。 ・ 前年度の反省を生かした企画、運営を行うことができた。 ・ より詳細な学習効果や事業効果を把握し、今後に生かす取り組みが求められた。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	ビオトープを利用した自然体験活動の授業
日時 (期間)	平成 24 年 7 月 4 日、5 日、10 月 16 日、17 日
場 所	北海道富良野市立扇山小学校
参加人数	のべ 6 名 (大学院生 3 名×2 回)
担当者	安藤 秀俊
概 要	<p>環境教育や ESD 教育の一環として、地域の小・中学校などにおいてもビオトープが作成されているが、授業の中で利用した事例はまだあまり多くはない。富良野市立扇山小学校では、2010 年度に学校ビオトープを完成させ、2011 年度から学校ビオトープを取り入れた活動を行うことを年間計画の中に位置づけており、今回、本学の地域貢献推進経費の支援を得て、「総合的な学習の時間」の中で、ビオトープを利用した自然体験活動を実践した。連携校では、既に 2011 年度に夏と秋の計 2 回にわたって、大学生による実践活動を試験的に実施しており、2012 年度も夏と秋の計 2 回の実践活動を計画した。内容としては「土壌動物の観察」と「植物の種子の散布」に焦点を当て、新たな学習プログラムを開発し、地域連携を行う中で、その指導事例の有効性の検討を行うこととした。第 1 回目の活動「土壌動物の観察」は、大学院生 3 名が 7 月 4・5 日に授業を行い、第 2 回目の活動は「植物の種の散布」に焦点を当てた活動を、10 月 16・17 日に行う予定である。</p> <p>7 月 4・5 日に行った活動では、「土の中の生きものたちをさがそう」というタイトルで、学校ビオトープ内の土から土壌動物の採集・観察・簡単な同定を行った。この活動では、普段土の中に生息しており、目で見ることの少ない土壌動物を取り扱い、生物のつながりや命の多さを体験的に児童に実感させることをねらいとした。</p>
成 果	<p>実践活動を行う前後にアンケートを取った結果から、児童の土壌動物に対する否定的な考え方の改善や土の中にいる生命の広がりへの認識などの効果が見られた。また、他の土壌動物についても観察してみたいなどの感想が得られたことから、自ら調べようとする意欲を児童から引き出すこともできたと考えられる。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	家庭ごみ 3R セミナー (旭川市主催)
日時 (期間)	平成 24 年 6 月 9 日
場 所	旭川市民文化会館第二会議室
参加人数	48 名
担当者	角 一典
概 要	<p>本講演は、旭川市環境部ごみ減量推進課の「平成 24 年度家庭ごみスリム化事業」の一環として行われ、担当者は、セミナーにおける講話として、「家庭で考える 3R のいろいろ」と題した報告を行った。報告の主な内容は、1) ”3R” とは？、2) リサイクルの問題点とリデュースの重要性、3) 旭川市の 3R の状況、4) 生ごみのリデュースとリサイクル、5) 家庭からすすめる 3R、である。</p> <p>なお、当日の様子は旭川市の HP で紹介されている。 (http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/gomigenryo/3rseminar/H24seminar1/3r-seminar-kekka.html)</p>
成 果	<p>意識の高い市民が集まったため、多少専門性の高い内容の講演になったが、おおむね理解をいただけたようである。後日、旭川市から送付された礼状の一部を以下に抜粋する。</p> <p>「受講者からは、『リサイクルの難しさ、リデュースの大切さがわかった』や『3R を家庭から考える必要性を実感した』、『3R について日常の中で考えるきっかけになった』といった感想が聞かれ、3R の必要性や家庭でできることについて自ら考えるきっかけとなったのではないかと感じております」。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	講演「新幹線開業は地域になにをもたらすか」 もう一度北海道新幹線について考える（さっぽろ自由学校「遊」主催）
日時（期間）	平成 24 年 9 月 28 日
場 所	さっぽろ自由学校「遊」会議室
参加人数	約 10 名
担当者	角 一典
概 要	<p>本講座は、市民による自主運営の学びの場であるさっぽろ自由学校「遊」が主催する「もう一度北海道新幹線について考える（全 2 回）」の 2 回目の講座として行われた。</p> <p>担当者は、18 年に及ぶ整備新幹線研究の成果の一部を紹介する形で、整備新幹線の歴史と基本的な行財政の構造、既設の整備新幹線の建設及び開業にかかわる地域への影響などについて、事例などを踏まえながら紹介するとともに、今後北海道新幹線の建設が進み、さらには開業となった時の地域への影響を簡単に予測し、受講者に紹介した。</p>
成 果	<p>当初 2 時間で予定された講座であったが、予定を 30 分超過するほど質疑応答が活発に行われた。北海道新幹線に関する基礎的知識と、全国の既設・既着工の新幹線に関するさまざまな問題についての知識を獲得し、北海道新幹線に関して、あるいは新幹線開業にかかわる様々な課題について、それぞれに考えを深めたものと思われる。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	講演「やっかい物を時限・エネルギーへ 雪が拓く可能性」 (旭川ウェルビーイングコンソーシアム主催公開講座)
日時 (期間)	平成 24 年 10 月 27 日
場 所	まちなか交流館 HI・RO・BA
参加人数	未定
担当者	角 一典
概 要	本講座は、旭川ウェルビーイングコンソーシアムが主催する、旭川市民向けの公開講座の一環として行われるものである。北海道では、近年雪の資源・エネルギー利用について注目が集まっており、担当者が 2008 年以来継続して調査を行っている知見を活かし、主に空知地方における雪の利用について紹介し、冷熱エネルギーに関する市民の意識喚起を目指す。
成 果	本公演は未実施につき、成果の記述は割愛する。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	平成 24 年度上川管内高等学校養護教諭研究協議会 第 2 回研究協議会 「養護教諭のためのフィジカルアセスメント」
日時 (期間)	平成 24 年 9 月 11 日
場 所	北海道美深高等学校 会議室
参加人数	9 名
担当者	芝木 美沙子
概 要	<p>上川管内高等学校養護教諭研究協議会から上記テーマでの講演の依頼を受けたものである。</p> <p>養護教諭が行っているヘルスアセスメントの身体的側面を、根拠に基づき的確に把握しようとしているのがフィジカルアセスメントである事を説明し、特に、聴診器の扱い方と感覚器である目と耳のフィジカルアセスメントについての実習を行った。</p>
成 果	講演後の質疑応答と参加者との交流で、フィジカルアセスメントという、難しい事と思っていたが、簡単に出来るものがある事がわかったという感想があった。また、養護教諭として、フィジカルアセスメントの知識・技術の必要性についても述べられ、効果があったと思われる。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	生き生き活動する武道授業 — 柔道 —
日時 (期間)	平成 24 年 2 月 9 日～平成 24 年 3 月 7 日
場 所	旭川市立第二中学校、旭川市立常盤中学校
参加人数	第二中学校 33 名、常盤中学校 17 名、保健体育分野学生 7 名
担当者	小出 高義
概 要	<p>概要 平成 24 年度から学習指導要領の改訂により、中学校保健体育においては、1・2 年生男女ともに武道が必修化された。それまでは選択で良かったため、男子は武道、女子はダンスという男女別の学習を行っていた中学校が多かった。この武道必修化には多くの課題が挙げられるが、現場の先生方にとっては、施設・用具の不足より武道を未経験の女子にどのように指導したら良いかということの方が問題視されていた。特に、それまで体育授業で武道を指導したことの無い女性の先生方もおり、マスコミがあまりにも大きく安全面について取りあげたことも、教師の指導不安を助長した。そこで、武道を専門としない体育の先生方に向けて、その指導法のヒントとなるような実践報告を作成し、上川管内の各中学校に配布できればと願い、本実践に踏み切ることにした。具体的には、上記二校において男女共習「柔道」の授業（10 時間）を実践し、その内容をまとめた。なお本事業は、平成 23 年度の学長裁量経費（地域貢献推進経費プロジェクト）により、活動の支援を受けた。</p>
成 果	<p>実践校では柔道の指導経験のない先生方であり、出前授業としてその指導方法を学べたことはとても有益であったと感謝された。さらに生徒から、最終回に花束をお礼の言葉を添えてプレゼントされたときは、感慨無量であった。また、上川の先生方からは、授業づくりの参考にしてもらうと共に、今後も授業づくりのお手伝いをしていくことを伝え、地域の授業研究の拠点として様々な交流を図っていく、基盤を整備しつつある。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	東川町立東川小学校 ボランティア
日時 (期間)	平成 24 年 5 月 29 日～平成 25 年 3 月末
場 所	東川町立東川小学校
参加人数	7 名
担当者	須田 康之 (教育発達専攻教育学分野)
概 要	<p>毎週、月曜 (2 名)、火曜 (2 名)、水曜 (3 名) にわかれて、東川小学校に出向向き、教育活動のお手伝いをしている。時間帯は、3. 4 校時目、給食、清掃、休み時間である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TT として学級に入り、少人数指導、個別指導の補助をする。 ・プリントや問題集の丸付けの補助をする。 ・教具の準備・片付けの手伝いをする。 ・給食指導 ・一緒に清掃し、掃除区域の見回りをする。 ・休み時間に、子どもたちと安全に配慮して楽しく遊ぶ。
成 果	学校の様子を知るとともに、教師としてのあり方や授業の構成の仕方を、少しずつではあるが学んでいる。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市立青雲小学校 ボランティア
日時 (期間)	平成 24 年 5 月～平成 25 年 3 月末
場 所	旭川市立青雲小学校
参加人数	11 名
担当者	須田 康之 (教育発達専攻教育学分野)
概 要	<p>前期は、毎週、月曜日、木曜日の 2 回、空きコマを利用して、青雲小学校の、青雲 1 組 (知的障害児のための学級)、青雲 2 組 (不登校児のための学級)、青雲 3 組 (発達障害児のための学級) に出向き、学級の児童とかかわることを中心に、担当指導教員の指示のもと授業のお手伝いをした。</p>
成 果	<p>かかわることが難しい子どもとかかわることを経験する中で、かかわる方法 (言葉がけや態度、表情、遊びなど) を工夫してかかわることができるようになってきている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	土曜スクール・みのり (旭川市母子福祉連合会事業)
日時 (期間)	平成 24 年 6 月～平成 25 年 3 月末 月 2 回 (第 2・4 土曜日午後 1 時～3 時)
場 所	ときわ市民ホール
参加人数	13 名
担当者	須田 康之 (教育発達専攻教育学分野)
概 要	<p>旭川市母子福祉連合会ならびに旭川市子育て部子育て支援相談室からの要請を受け、ひとり親家庭の子どもさんたちへの学習支援を行っている。</p> <p>宿題のお手伝いをしたり、勉強で困っていることの相談を受けたりすることで、子どもたちとの話し相手になったり、意欲的に学習に取り組めるような工夫を見い出したりしている。</p>
成 果	<p>子どもと楽しくかかわる機会を得、話をしたり学習のお手伝いをしたりすることによって、少しずつ子どもを理解することができている。お母さん方からも、軽食の差し入れをしてくださっており、お気遣い頂いている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	今日も行く？互いに学び、教えあえるコミュニティカフェ ～小規模高齢者地域でつくる居心地の良い陽だまり～
日時 (期間)	平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月
場 所	留萌市
参加人数	3 名
担当者	須田 康之 (教育発達専攻教育学分野)
概 要	教育発達専攻教育学分野の卒業生からの要請に応え、3名の学生がボランティアとして従事している。この事業の趣旨は、地縁・血縁によらない新たなつながりの中で地域固有の文化・産業を守り育てるモデルケースづくりにある。食をテーマにした勉強会、準備例会、収穫祭に参加し、さまざまなスタッフとの交流を通して、地域の在り方を学び、地域づくりのための勉強を行っている。
成 果	年齢の異なる異業種の人々の交流することで刺激を受け、かつ地域のよさを再発見する機会になっている。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	学習支援ボランティア団体「ゆずりは」
日時 (期間)	平成 23 年 7 月 23 日～継続中 (平成 24 年 9 月 29 日現在、毎週木・土の週 2 回実施、今後も継続予定)
場 所	旭川市北星地区センター (旭川市旭町 2 条 8 丁目)
参加人数	のべ 39 人 (国語教育専攻、英語教育専攻、社会科教育専攻、数学教育専攻、理科教育専攻、理科教育専攻、生活・技術教育専攻、芸術・保健体育教育専攻)
担当者	野村 忠央
概 要	<p>昨年、英語教育専攻に在学している学生を発起人とし、ほぼ全専攻の学生に声を掛け、旭川市内の小・中学生及び高校生に無償で学習支援を行うべく設立された。</p> <p>現在の日本の公教育を補うものとして学習塾や家庭教師が存在するわけだが、親の経済状況その他によって、それを享受できない児童・生徒も少なからず存在する。そのような状況を少しでも是正してしたいという気持ちの有志が集まって、このボランティアが立ち上がった。</p> <p>具体的な活動としては、週 2 回木・土の 18:00～21:00 の時間帯に旭川市北星地区センターの 1 教室あるいは 2 教室を借り、教科は 5 教科全てを対象としている。しかし、それを塾や家庭教師のように一律に強制してやらせるのではなく (持ち物も筆記用具あるいは自習道具だけ)、当該の小・中学生及び高校生が、任意の曜日、任意の時間 (部活動や生徒会活動の時間の後など) に、学校の勉強の予習・復習や、長期休業中の課題などで勉強していてわからないことなどを、いつでも自由に質問や勉強をしに来て欲しいというスタンスで活動を行っている。(「ゆずりは」のホームページも立ち上げているので、より詳細な活動に内容については、そちらを参照されたい。)</p>
成 果	<p>昨年、開設に苦労したこの活動も、早いもので、2 年目に入った。学生たちも役員を交替し、新たな課題に直面しながら、様々な経験、勉強をしていると思われる。保護者・学校・地域の理解や協力が不可欠であるということはもちろんのこと、運営のための人員、場所、経費の確保などの活動のマネジメント、あるいは、教員を目指す彼らにとって、自分の専門教科以外の教科を教える難しさ、あるいは塾のような統一教材がない状態で、学習レベルが異なる生徒が混在している中、静謐な環境を保ちつつ活動を発展させていく困難さなどである。</p> <p>本年度は新生入生が思ったよりは少なく、シフトの調整などにも苦労しているようだが、うれしい成果として、地元誌「あさひかわ新聞」の取材があり、半ページの大きな誌面を使って活動が紹介された。</p> <p>筆者は彼らの定例会にも可能な限り参加するよう努めているが、その中で、彼ら学生たちは、手探りの中、思いがけない課題や問題に直面し、それらを克服しようと努力している。筆者としても、協力できることは協力し、見守っていきたいと考えている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	3つ実験ブースの出展参加 (旭川市科学館(サイパル)科学探検広場 2012)
日時 (期間)	平成 24 年 1 月 8 日～平成 24 年 1 月 9 日
場 所	旭川市科学館(サイパル)
参加人数	のべ 36 名 (理科教育専攻化学浅川ゼミ 18 名×2 日間)
担当者	浅川 哲弥
概 要	<p>冬休みの期間中に、子どもたちの知的な好奇心や探求心・想像力に訴える楽しく不思議な科学の実験や制作に触れることが出来る場を設けて、子どもたちの科学への興味やロマンをはぐくむことを目的として、旭川市科学館(サイパル)は、毎年1月の10日前後の土、日に科学探検広場を開設している。理科教育専攻化学教室の浅川ゼミでは、個々に毎年、3、4のサイエンスブースを公開している。今年の実験者は2日間で、1万人を超えた。</p> <p>我々のコンセプトは、子どもたちに楽しく、安全に実験をしてもらい、できあがった製品を記念として持ち帰ってもらい、付き添いの大人に実験の原理等を説明する試みをすることである。</p> <p>今年は、プラスチックの弁当箱の蓋に絵を描いて、トースターで加熱して、縮め、キーホルダーを作るブース。ジェルワックスを溶かしてキャンドルを作るブース、食用油に固めるテンプレートを加えて香りのするキャンドルを作るブースの3ブースを出して、子どもたちに作り方を教え、一緒に制作を指導した。</p> <p>普段のゼミ活動では、科学探検広場の参加のためにどんな実験をしたら良いか、より安全に行うにはどうするか、という様々な観点から予備実験を行う活動を行っている。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちやその大人の保護者とのコミュニケーションがうまくとれるようになった。 ・ 実験原理等についての理解が深まり、教材開発の方法が身についた。 ・ ボランティア活動を体験することにより、大変だがやりがいを感じる事が出来た。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	色変化と酸性アルカリ性 (みんなで体験 夏休みわくわくサイエンス)
日時 (期間)	平成 24 年 8 月 4 日(土)11:00~16:00 平成 24 年 8 月 5 日(日)10:00~14:00
場 所	まちなか交流館 HI・RO・BA (旭川市 4 条通 8 丁目買物公園)
参加人数	のべ 10 名 (理科教育専攻化学浅川ゼミ 5 名×2 日)
担当者	浅川 哲弥
概 要	<p>旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの主催で夏休みの期間に子供理科実験教室として企画された。</p> <p>我々のブースでは、植物の色素がpHの変化(酸性、アルカリ性)により、色が変わる性質を用いて、様々な液体の酸性、アルカリ性を判定する実験を、子どもたちと行った。</p> <p>ウスベニアオイの花から植物色素としてマローブルーと呼ばれる色素を抽出して、それをろ紙に染みこませ、乾燥したろ紙に様々な身近な液体を滴下して、発色の違いから酸性アルカリ性を判定し、色の色調からその強さもわかる実験とクルクミンというカレースパイスのウコンの液もアルカリ性の液を加えると色が変わるので、その変化を試してみる実験を主に行った。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちやその大人の保護者とのコミュニケーションがうまくとれるようになった。 ・ 実験原理等についての理解が深まり、教材開発の方法が身についた。 ・ ボランティア活動を体験することにより、大変だがやりがいを感じる事が出来た。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	楽しく理科の実験をしてみよう (永山小学校2年2組のクラスレクリエーション)
日時(期間)	平成24年10月13日(土)10:00~11:00
場 所	永山小学校体育館
参加人数	理科教育専攻化学浅川ゼミ 15名 児童 44名、保護者 28名
担当者	浅川 哲弥
概 要	<p>児童、兄弟、親が対象。 事前の調整をして、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ダイラタンシー 片栗粉を水で溶いて、ぎゅっと握るとつかめるのですが、そのままつかんでいるとどろどろと流れてしまう不思議な塊を作って、いろいろ遊んでみようというものです。 2. 酸性アルカリ性で色が変わる紙 pHが違ふと色が変わる物質を染みこませたろ紙にいろいろな液を付けて、色の変化を楽しむものです。 3. バルーンスライム 少し柔らかくして、ストローで息を吹き込むと風船のように膨らむスライム作りです。 4. 人工いくら アルギン酸という物質を使って、イクラのような丸いツブを作ってみようというものです。ツブの中の液の色をうまく付けると本当のイクラのように見えます。 5. プラスチック板の加熱による収縮 薄いプラスチックのうすい板に彩色して、加熱するとぎゅっと縮んで、色の付いた小さな板になる実験で、葉を作ります。 <p>を体育館で、実施。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちやその大人の保護者とのコミュニケーションがうまくとれるようになった。 ・ 実験原理等についての理解が深まり、教材開発の方法が身についた。ボランティア活動を体験することにより、大変だがやりがいを感じる事が出来た。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	英語教師の会 MATE (Meeting Asahikawa Teachers of English)
日時 (期間)	平成 24 年 5 月 12 日 (第 1 回)、6 月 16 日 (第 2 回)、 7 月 21 日 (第 3 回)、9 月 15 日 (第 4 回) 17:00~19:00
場 所	まちなか交流館 HI・RO・BA
参加人数	第 1 回 22 名、第 2 回 17 名、第 3 回 15 名、第 4 回 18 名
担当者	笠原 究、石塚 博規
概 要	<p>今年度より、旭川市内の小中高の英語に関わる教員、及び英語教育に関心のある人を対象に、英語でのプレゼンテーションやディスカッションを行う会として発足したのが MATE (Meeting Asahikawa Teachers of English) である。MATE の目的は(1)参加者に英語によるコミュニケーションを楽しむ機会を与える、(2)英語学習、教授法に関するアイデアを分かち合う、(3)英語に関わる人の輪を広げる、の 3 つである。</p> <p>会合は毎月第 2 土曜日を中心に、現在まで 4 回開催された。毎回 2 名の方にプレゼンテーションを依頼し、続いて質疑応答を行っている。毎回十数名の参加があり、和やかな雰囲気の中で英語のやり取りが交わされている。参加者は小中高の英語教員、塾講師、一般の方、さらには本学の大学院生、学部生も参加している。終了後は希望者でパーティーを開き、そこでも英語による会話を楽しんでいる。</p> <p>今後も 1、2 か月に 1 回のペースで会を開いていく予定である。課題は、参加者がほぼ固定されているということである。常連の参加者を大切にしながら、新たな人にも参加してもらえよう工夫を重ねたい。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・各教師の実践交流、意見交換の場となっている。 ・参加者の英語コミュニケーション力の向上に寄与している。 ・学生にとっても、現職の教員から学べる貴重な機会になっている。

付 属 資 料

学生ボランティア派遣事業(概要)

北海道教育大学旭川校
地域教育連携・貢献推進委員会

1 本事業のねらい

相互協力協定を締結している北海道教育大学と旭川市との協力事業の一つとして、旭川校の学生を派遣要請のあった旭川市内の小・中学校に派遣することを通し、学生のボランティア意識の高揚や教職に求められる資質能力の向上を期待するとともに、確かな学力や豊かな人間性などの育成を目指し、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな教育活動を支援することにより、地域社会への貢献と旭川校の実践的教育研究の充実を図る。

* 指導の補助者(assistant)としての派遣である。

2 事業開始

2005(平成17)年(後期 12月)

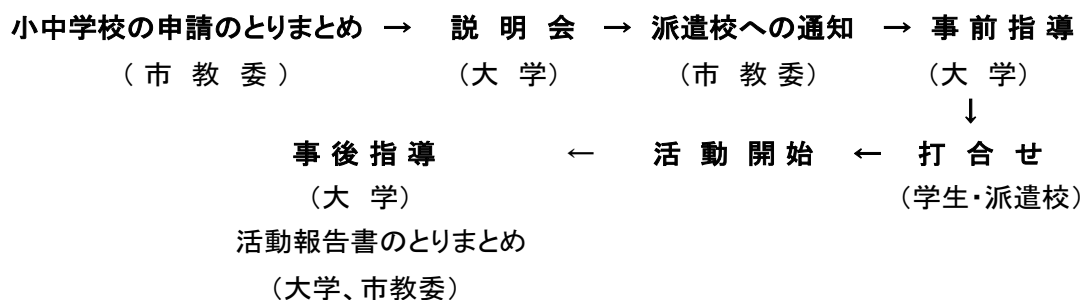
* 当初、3年計画で実施。その後、事業の成果に鑑み継続実施し、現在に至っている。

3 活動内容

少年団活動や部活動を除く、教育課程内の教育活動(学習指導、特別支援学級支援等)

4 学生派遣までの過程等

- (1) 1年を前・後期の2期に分けて実施
前期:5月～9月 後期:10月～2月
- (2) 学生派遣までの流れ(前、後期共通)



- (3) 活動計画書及び報告書Ⅰ・Ⅱの提出
 - ・活動計画書:活動開始前に、学校との打合せ終了後に大学に提出
 - ・活動報告書Ⅰ・Ⅱ:活動終了後に大学に提出
- (4) 学生ボランティア派遣事業連絡協議会の開催
年度末の3月に、旭川教育委員会・旭川市小、中学校校長会・大学の三者でその年度の事業全体にわたっての事業報告・協議等を行い、次年度に生かす。

5 派遣校及び派遣学生の実績数（2005年度後期 ～ 2012年度）

年 度	期	小 学 校			中 学 校			派 遣 総 数
		申請校数	派遣校数	派遣学生数	申請校数	派遣校数	派遣学生数	
2005 (平17)	後 期	28	24	97	9	6	9	106
2006 (平成18)	前 期	20	20	70	10	7	8	78
	後 期	27	21	61	8	3	5	66
2007 (平成19)	前 期	21	17	63	5	1	3	71
	後 期	30	18	49	5	3	6	55
2008 (平成20)	前 期	24	18	54	9	2	9	63
	後 期	32	22	62	7	6	15	77
2009 (平成21)	前 期	27	17	80	8	4	11	91
	後 期	27	20	75	9	7	19	94
2010 (平成22)	前 期	19	7	27	10	7	11	38
	後 期	28	17	59	13	11	26	85
2011 (平成23)	前 期	21	12	33	9	7	10	43
	後 期	34	12	41	13	10	25	67
2012 (平成24)	前 期	13	11	22	10	2	2	24
	後 期	34	15	33	15	6	13	46

* 派遣学生数については、一人で複数校参加もありのべ人数を示す。

6 活動内容の概要（2005年度後期 ～ 2012年度）

事業開始3～4年間は、特別支援学級への参加希望が多かったが、その後は、学習指導への参加が多くなってきている。

(1) 学習指導の補助

◎ 小学校における算数や中学校における数学、英語学習の補助

- ・ 最近の傾向として、中学校の放課後学習への要請が増加している。
- ・ 小学校においては、学力の身に付いていない及び軽度発達障害を持った児童への個別支援が多い。
- ・ ミシン学習、水泳学習、スキー学習における個別補助
- ・ 生活科や総合学習で校外に出かける際の引率補助

(2) 特別支援学級の児童生徒への指導補助

- ◎ 学習及び生活全般にわたる補助
- ◎ 普通学級との交流学习の際の補助
- ◎ 運動会や学芸会の際の補助

(3) 学校行事への補助

◎ 運動会、遠足などの補助

かつては、夏季休業中に行われる【よさこい】の指導要請（前段の練習段階から）に応えたこともあった。

(4) 学校図書館運営の補助

- ◎ 学校図書館充実への補助
- ◎ 図書委員会活動への補助
- ◎ 本の読み聞かせ活動への補助

(5) 不登校傾向の児童生徒への指導補助

7 学年・男女別派遣学生実績数（2005年度後期～2012年度）

年度	期	性別	院生	4年生	3年生	2年生	1年生	計
2005 (平成17)	後期	男子	0	2	1	6	0	9
		女子	2	12	12	4	1	31
	計	2	14	13	10	1	40	
2006 (平成18)	前期	男子	0	7	1	0	2	10
		女子	0	5	5	0	0	10
	後期	男子	1	32	7	4	0	44
		女子	1	27	8	4	0	40
計	2	71	21	8	2	104		
2007 (平成19)	前期	男子	0	7	4	4	0	15
		女子	0	7	1	1	0	9
	後期	男子	1	19	17	4	0	41
		女子	0	15	16	1	0	32
計	1	48	38	10	0	97		
2008 (平成20)	前期	男子	0	7	6	0	0	13
		女子	0	29	8	4	0	41
	後期	男子	0	4	12	9	4	29
		女子	0	15	23	10	1	49
計	0	55	49	23	5	132		
2009 (平成21)	前期	男子	1	18	13	3	3	38
		女子	0	23	13	8	1	45
	後期	男子	1	19	13	2	0	35
		女子	0	14	20	3	0	37
計	2	74	59	16	4	155		
2010 (平成22)	前期	男子	0	9	3	0	1	13
		女子	0	21	0	0	0	21
	後期	男子	0	10	18	1	1	30
		女子	0	10	27	0	0	37
計	0	50	48	1	2	101		
2011 (平成23)	前期	男子	1	15	1	0	0	17
		女子	0	16	0	0	0	16
	後期	男子	1	13	6	6	0	26
		女子	0	19	11	1	0	31
計	2	63	18	7	0	90		
2012 (平成24)	前期	男子	2	3	1	0	0	6
		女子	0	6	4	3	0	13
	後期	男子	2	3	13	0	0	18
		女子	1	4	12	1	0	18
計	5	16	30	4	0	55		

8 成果と課題（2005年度後期～2012年度）

1 成果

- (1) 大学としての主たる目的である地域貢献に寄与するとともに、教職を目指す学生にとっての実践的資質能力の習得に大きな貢献となっている。
- (2) 受け入れ学校及び旭川市教育委員会にとって、欠かすことのできない事業となっている。

2 課題

- (1) 参加学生増への取り組み (2) 遠距離学校への派遣 (3) 同一校への継続参加

平成24年度 授業公開講座一覧

開講	講座(授業)名	担当教員	対象	期間
前期	漢文学特論B	大橋 賢一	市民一般	24.04.09～24.07.23(15回)
	社会学演習Ⅲ	角 一典	市民一般	24.04.09～24.07.30(15回)
	社会学概論	角 一典	市民一般	24.04.09～24.07.30(15回)
	物理学概論Ⅰ	阿部 修	市民一般	24.04.10～24.07.24(15回)
	音楽史Ⅰ	菅野 道雄	市民一般	24.04.11～24.08.01(15回)
	漢文講読Ⅰ	大橋 賢一	市民一般	24.04.09～24.07.09(13回)
	中学校美術科教育法Ⅱ	南部 正人	市民一般	24.05.10～24.06.14(6回)
	近代小説を読む	片山 晴夫	市民一般	24.04.12～24.07.26(15回)
後期	中国書道史	矢野 敏文	市民一般	24.10.01～25.02.04(15回)
	小学校図画工作科教育法	名達 英詔	市民一般	24.10.05～24.12.14(10回)
	近代文学購読Ⅱ	片山 晴夫	市民一般	24.10.04～25.01.31(15回)
	外国地誌	氷見山 幸夫	市民一般	24.10.03～25.01.23(15回)
	漢文学特別演習	大橋 賢一	市民一般	24.10.01～25.02.04(15回)
	漢文講読Ⅱ	大橋 賢一	市民一般	24.10.01～25.02.04(15回)
	音楽教育演習Ⅱ	菅野 道雄	市民一般	24.10.04～25.01.31(15回)
	哲学概論	佐々木 周	市民一般	24.10.03～25.01.23(15回)
	現代と社会	角 一典 千葉 胤久 海老名 尚	市民一般	24.10.01～25.02.04(15回)
	社会科学入門	海老名 尚 角 一典 西村 邦行	市民一般	24.10.04～25.01.31(15回)
	社会学演習Ⅳ	角 一典	市民一般	24.10.01～25.02.04(15回)
	社会調査論	角 一典	市民一般	24.10.04～25.01.31(15回)
短詩形文学入門	伊藤 一男	市民一般	24.10.04～25.01.31(15回)	

学 校 訪 問 等(23.10.1～24.9.30)

来校日	来校した学校(学年)	来校人数	内 容
23.10.12	東神楽町立東神楽中学校(2年生)	4名	大学案内、施設見学
23.10.25	北海道旭川西高等学校(1年生)	240名	大学案内、施設見学
23.11.02	北海道上川高等学校(1～2年生)	6名	大学授業の受講、施設見学
24.03.27	北海道旭川東高等学校(2年生) 北海道旭川西高等学校(2年生) 北海道旭川北高等学校(2年生)	19名	教員志望の生徒による グループディスカッション
24.04.25	北海道網走南ヶ丘高等学校(1年生)	108名	大学案内、施設見学
24.05.17	北海道遠軽高等学校(1年生)	46名	大学案内、施設見学
24.07.11	私立旭川実業高等学校(1～2年生)	63名	大学案内、施設見学
24.07.30	北海道上川高等学校(1～2年生)	7名	大学授業の受講、施設見学
24.09.28	北海道留萌高等学校(1年生)	40名	大学案内、施設見学

出 前 授 業(23.10.1～24.9.30)

訪問日	訪問した学校(学年)	参加人数	内 容
23.11.09	北海道札幌新川高等学校(1～2年生)	30名	授業テーマ「もし、日本史の教科書を批判的に読んだら？」 派遣教員:海老名 尚
23.12.08	北海道苫小牧東高等学校(2年生)	280名	授業テーマ「認知心理学の世界を体験しよう」 派遣教員:懸田 孝一
24.07.20	北海道旭川凌雲高等学校(2年生)	44名	授業テーマ「これからの学習指導の在り方について」 派遣教員:笠井 稔雄
24.07.20	北海道旭川西高等学校(2年生)	30名	授業テーマ「授業作りを体験的に学んでみよう」 派遣教員:黒谷 和志

平成24年度 審議会等委員派遣一覧(その1)

24.10.1 現在

委嘱された審議会・委員会等	任 期
旭川市民生委員推薦会委員	22.06.01 ~ 25.05.31
市立旭川病院委員会委員	23.04.01 ~ 25.03.31
道北地方医療安全推進協議会委員	23.04.01 ~ 25.03.31
旭川市環境部審議会委員	23.04.06 ~ 25.04.05
旭川市民文化会館運営審議会委員	23.07.01 ~ 25.06.30
旭川市井上靖記念館運営協議会委員	23.08.01 ~ 25.07.31
旭川市工業技術センター委員会委員	23.08.02 ~ 25.08.01
旭川市国民健康保険運営協議会委員	23.09.01 ~ 25.08.31
旭川市教育委員会音楽堂等運営協議会委員	23.09.01 ~ 25.08.31
旭川食品産業支援センター運営委員	23.09.07 ~ 25.09.06
旭川市情報公開・個人情報保護委員会委員	23.10.01 ~ 25.09.30
日本学術会議会員	23.10.01 ~ 27.03.31
旭川市公民館運営協議会委員	23.11.01 ~ 25.10.31
旭川市工芸センター運営委員	23.12.01 ~ 25.11.30
旭川地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員	23.12.18 ~ 26.12.17
旭川市住居表示等審議会委員	24.01.26 ~ 26.01.25
旭川市野外彫刻設置・管理検討会議委員	24.02.21 ~ 26.02.20
旭川市市民参加推進会議委員	24.02.27 ~ 26.02.26
旭川市消費生活会議委員	24.03.02 ~ 26.03.01
旭川市職員相談室相談員	24.04.01 ~ 25.03.01
旭川市開発審査会委員	24.04.01 ~ 26.03.31
上川圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会推進委員	24.04.01 ~ 26.03.31
北海道教育庁留萌教育局長特別支援連携協議会委員・専門家チーム委員	24.04.01 ~ 26.03.31
旭川市都市計画審議会委員	24.05.01 ~ 26.04.30
第2次健康日本 21 旭川計画策定委員	24.05.01 ~ 25.03.31
旭川市社会教育委員	24.05.01 ~ 26.04.30
国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会委員	24.05.22 ~ 26.03.31
富良野市職員相談室相談員	24.06.01 ~ 25.03.31

平成24年度 審議会等委員派遣一覧(その2)

24.10.1 現在

委嘱された審議会・委員会等	任 期
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会委員	24.06.01 ~ 26.05.31
北海道スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員	24.06.01 ~ 27.03.31
旭川市教育委員会特別支援教育推進委員会委員	24.06.01 ~ 26.05.31
道立旭川美術館協議会委員	24.06.10 ~ 26.06.09
旭川市・子ども・子育て審議会委員	24.06.15 ~ 27.06.30
旭川市食育推進会議委員	24.06.21 ~ 26.06.20
旭川市北彩都あさひかわ開発促進期成会常任委員	24.06.26 ~ 25.05.03
旭川市まちづくり基本条例市民検討会議委員	24.07.01 ~ 26.10.31
旭川市生活館運営審議会委員	24.07.07 ~ 26.07.06
北海道上川総合振興局道営農業農村整備事業等環境情報協議会委員	24.07.10 ~ 25.05.31
北海道教育委員会学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー	24.07.20 ~ 26.03.31
北海道教育庁上川教育局上川管内特別支援連携協議会委員	24.07.24 ~ 25.03.31
旭川市文化財審議会委員	24.08.01 ~ 26.07.31
旭川市博物科学館協議会委員	24.09.01 ~ 26.08.31
旭川市常盤公園河川空間検討懇談会委員	24.09.01 ~ 25.02.28
上川教育局学力UPサポートチーム構成員	24.09.12 ~ 25.03.31
旭川市景観審議会委員	24.09.24 ~ 26.09.23

平成24年度 講演会講師・助言者等派遣一覧(その1)

23.10.1～24.9.30

依頼された講演会の講師等	開催日	受講対象者	備考
健康保養フォーラム講師・コーディネーター	23.10.01	一般市民	2名派遣
「上川管内教育研究会－南部地区研究会」講師・助言者	23.10.04	各地区教職員	4名派遣
「上川管内教育研究会－中部地区研究会」講師・助言者	23.10.05	各地区教職員	5名派遣
「上川管内教育研究会－北部地区研究会」講師・助言者	23.10.28	教職員	
東川町幼児センター職員研修講師	23.10.12 24.02.22	保育者	
東川町合宿の里推進協議会設立準備会・準備委員	23.10.18	一般市民	
旭川市「特別支援教育」講演会講師	23.10.22	一般市民	
旭川市小・中学校教育研究会講師・助言者	23.10.25	教職員	3名派遣
平成23年度上川管内学力向上UP! 事業「第1回上川管内算数ネットワークセミナー」講師	23.10.28	教職員	
フォーラム「特別支援教育を考える」講師	23.11.02	一般市民	
北海道高等学校英語弁論大会道北地区大会審査委員	23.11.02	高校生	2名派遣
旭川市ごみ減量等推進優良事業所認定審査会審査委員	23.11.15	一般市民	
旭川市自閉症児者親の会「災害と発達障がいフォーラム」講師	23.11.19	一般市民	2名派遣
こども発達支援センター職員研修講師	23.11.21	センター指導員	
上川管内言語教育研究会 富良野地区研修講師	23.12.05	教職員	
平成23年度発達障がい児(者)支援を考える道民フォーラム・コーディネーター	23.12.10	一般市民	
井上靖記念館「文学講座」講師	23.12.10	一般市民	2名派遣
リーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成講習会講師	23.12.17 23.12.18	指導者	3名派遣
北海道東川養護高等学校校内研修講師	23.12.21	教職員	
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館こども彫刻教室講師	23.12.25	小学生	
雨竜高等養護学校校内研修会講師	24.01.13	教職員	

平成24年度 講演会講師・助言者等派遣一覧(その2)

23.10.1~24.9.30

依頼された講演会の講師等	開催日	受講対象者	備考
平成23年度北海道特別支援教育学会道北支部・たいせつネット合同研修会講師	24.01.13	教職員、学生、保護者	3名派遣
旭川西高等学校「科学英語講座」講師	24.01.25	高校生	
社会福祉法人鷹栖共生会法人内勉強会アドバイザー	24.01.30	職員	
生徒指導研修会講師	24.01.31	教職員	
旭川市教育研究会・総括研究大会助言者	24.02.01	教職員	2名派遣
北海道養護教員会上川支部ブロック全体、講演会・研修会講師	24.02.10	一般市民	
発達障害児に係わる研修会講師	24.02.28	保育士 他	
障害者支援センターきたのまち支援者向け講習会講師	24.03.03	関係機関職員	3名派遣
「合唱団えぼあ」指導に係る講師	24.03.03	合唱団員	
滝上町子育て講師	23.03.10	保護者 他	
上川版キャリアノート開発協議会助言者	24.03.14	関係委員	
北星学園大学「スミス・ミッション週間特別講演会」講師	24.05.10	学生	
平成24年度北海道感覚統合研究会講演会講師	24.05.27	一般市民	
第3会研修事業「ユニバーサルデザインの考えを取り入れた指導のあり方」講師	24.06.01	教職員 他	
十勝英語研究大会講師	24.06.06	教職員	
富良野市教育研究会国語半自主研修講師	24.06.18	教職員	
旭川医科大学病院看護職員研修講師	24.06.22	教育担当者	
平成24年度10年経験者研修「共通研修」講師	24.06.27	教職員	
旭川市家庭ゴミ3Rセミナー講師	24.06.29	一般市民	
旭川市教育研究会保健体育部研究助言者	24.07.04	教職員	
北海道旭川西高等学校「環境講座」講師	24.07.12	高校生	
日本自閉症スペクトラム学会講師	24.07.28	関係職員	

平成24年度 講演会講師・助言者等派遣一覧(その3)

23.10.1～24.9.30

依頼された講演会の講師等	開催日	受講対象者	備考
平成24年度特別支援学級・通級指導教室研修講座	24.07.30	特別支援学級 職員	2名派遣
雨竜高等養護学校校内研修会講師	24.08.01	教職員	
北海道紋別養護学校夏の学習会講師	24.08.01	教職員	
平成24年度北海道特別支援教育学会道北支部研修会コーディネーター	24.08.04	教職員	
旭川市教育委員会第10回研修事業講師	24.08.09	職員	
北海道旭川西高等学校 English Camp 講師	24.08.15 24.08.16	学生	
旭川市立朝日小学校校内研修会講師	24.08.16	教職員	
東川町幼児センター職員研修講師	24.08.22	保育者	
生徒指導研究協議会	24.08.29	教職員	
保健所管轄別研修講師	24.08.30	保健所職員 他	
士別市療育講演会講師	24.09.06	保育士 他	
北海道盲学校文化体育活動発表大会における「私の主張」審査員	24.09.07	学生	
上川管内北部高等学校養護教諭研究協議会講師	24.09.11	管内高等学校 養護教諭	
旭川市教育研究会保健体育部研究授業助言者	24.09.11	教職員	
発達学習会コスモ9月例会講師	24.09.12	一般市民	
旭川市立東五条小学校実践研究発表会助言者	24.09.14	教職員	
中級障害者スポーツ指導員養成講習会	24.09.17	該当指導者	
幌加内町教育研究会講演会講師	24.09.19	教職員	
親子わくわく体操教室講師	24.09.24	保護者	
浜頓別町こども園幼児体操教室実技指導	24.09.25	職員 他	
中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館「旭川彫刻散歩」講師	24.09.29	一般市民	

道北における地域教育支援の取り組み
—北海道教育大学旭川校教員による事例紹介—

発行日：2012年11月23日発行

編集／発行：北海道教育大学旭川校 地域連携フォーラム実行委員会

〒070-8621 北海道旭川市北門町9丁目

北海道教育大学旭川校
